

朝日 求人



ASAHI KYUJIN

「知と想像力が パワーである」

猪口邦子が語る仕事—1— 4 河津 威

いのぐち、くにこ ●上智大学法学部教授、エール大学政治学博士 (Ph.D)。専攻、国際政治学。1975年上智大学外国語学部卒業、82年エール大学政治学博士号取得。ハーバード大学国際問題研究所客員研究員などを経て90年より現職。防衛問題懇話会委員、行政改革会議委員を歴任し、2002年から04年まで軍縮会議日本政府代表部特命全權大使。03年より国連軍縮委員会 (ニューヨーク国連本部) 委員。03年小型武器軍縮の推進に国連会議の議長として貢献し、エイボン女性大賞受賞。主な著書に「戦争と平和」「政治学のすすめ」「戦略的平和思考—戦場から議場へ」など。

【日曜版】

朝日求人は 23面~25面

国際社会を動かす、被害者の声

体験した人だけが 語れる真の苦しみ

私が軍縮大使に任命され、多国間軍縮外交の議長職を担った時、被害国が声を上げるといふ考え方を推進しました。「raise the voice」と名付けたキャンペーンです。

対人地雷でひどい被害を受けた国々が、その実状と苦しさを訴える。また、通常兵器のもう一つの分野である小型武器の被害者が声を上げる。被害者は苦難を乗り越えた人という意味でサバイバーと呼ばれるのですが、他の人が経験したことのない痛みを越えてきた、そのことに対する敬意の念を軍縮の出発点としていきなしたかったのです。

サバイバーは、小さな国や経済的に立ち遅れた国々が多いのですが、もちろん世界で唯一の核兵器の被害を受けた日本もサバイバーです。核軍縮については強く発言してはなりません。ただ、そのために私が考え抜いたのは、自分の主張を聞いてもらうためには、そ

他の国の主張や苦しみにも耳を傾けなくてはならないということでした。

私には深い戦略的な思いがありました。日本の軍縮大使ですから、なんといっても広島・長崎の核被害を世界に受け止めてもらいたかった。でもそこへストリートに議論を持っていくのは難しかった。まずは地雷や小型武器によるサバイバーの声を細やかに聞くべきだと思ったのです。武器による人間の悲劇について共に考える、その素地を作るという決意でした。

想像する力が 壁を取り払う

大使をしていてつづつ感じたのは、人間は何と能力が乏しいのだろうということなのです。具体的に自分が経験した以上のことを、どうしてもイマジンできない。想像する力がとても弱いのです。

軍縮を実施する国連議長を務めて、初めは私の言葉で各国の悲劇の実状を訴えたのですが、その時は分かった気持ちになっただけでも、みんなすぐに忘れる(笑)。しか

し被害者の声を一度聞いてご覧なさい。これはぜひ忘れない。世の中でただ一人だけ、教師も議長も、おそろく宗教指導者も政治家にもできないことを可能にするのは被害者なのです。人のイマジンする力の壁を突破させてくれます。

被害者たちの、国連への不信感には強いものがありました。今までに一度だって、われわれのために役立ったことはないじゃないかと。議場にいらる各国の外交官は専ら日本人ばかりですから、被害者の痛みを想像できない。私はなんとしてもそこを突き抜けたかったのです。

この時NGOが非常に大きな動きをしてくれました。被害者の声を私の国連会議にたくさん届けてくれたので、議場は深い思いに包まれていったのです。やはり被害者の声は限りなく尊い。その痛みに心を巡らせることができ、初めて人も国も動くのです。この壁が取り払われていけば、日本の核被害についても深い理解を得られると、私は意を強くしていきました。

(談)

新聞東京本社広告局「朝日求人」係 お問い合わせ先：メディア推進部 ☎03-5540-7773 (受付時間：月～金 AM9:30～PM5:30 (祝日除く)) アサヒジョブアラツ http://www.asahi.com/job/

猪口 邦子



「朝日求人」の各コーナーに対するご意見、ご感想をお寄せください。あて先：〒104-8665 東京権局私書箱303 郵